

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	埋田 重夫
講義コード	2331009010		講義名	中国文学概論 I
開講曜日	水曜日	3. 4時限	専門科目	
授業回数	15回	休講回数0回	補講回数0回	受講登録者数47人
成績評価に際し注意した事項				
1. 出席状況 2. 定期試験 3. その他				
報告内容				
<p>この授業は中国文学全体にわたって認められる顕著な特徴・傾向について、各時代の散文・韻文などさまざまな文献を紹介しながら、多角的に分析と検討を加えるというものであった。講義を貫く鍵は「中国人の世界観における人間の地位」であり、その点を絶えず意識しながら中国文学の原論的な諸問題や世界文学におけるその際立った独自性について言及し解説した。</p> <p>受講生は言語文化学科の45名と法学科の1名および社会人聴講生1名からなり、マイクを使用して質疑応答を含めながら講義を進めた。参考書は指定したが基本的にプリント教材を中心にして15回の授業を展開した。今年度も配布するプリント教材はファイルしやすいようにB5版とB4版に統一し、全ての教材には整理しやすいように通し番号を付した。半期の授業であるが全部で80枚程度の教材を配布した。記述式の回答では「体系がしっかりと組み立てられている」「知識が豊富で専門性が高く大学教育にふさわしい」「分かりやすく濃い内容である」「テーマが明確で分かりやすい」「プリントが興味深い内容で勉強になった」「新しい知識がたくさん得られた」「板書を丁寧にしてくれるので有難かった」「資料が豊富で役に立つ」「今後の卒論に繋げられるような内容であった」「プリントの復習がしやすい」「中国文学の特徴がつかみやすい」「講義内容が明確に示されていて新しい視点で見えていけるようになった」「声もはっきりしており面白いことがたくさん聞けてよかった」「日本との違いにびっくりした」「板書が簡潔で見やすい」「さまざまな教材を使用してくれるので理解が深まった」「毎回いろいろな作品が読めるのでわくわくした」「内容が具体的で中国への関心が講義を受ける前より一層深まった」などのプラス評価、「情報量が多すぎて処理しきれずテストが不安」「内容が少し専門的で難しく感じた」「テレビやその他の機器で見えない位置に板書されて困った」「教室が寒いので暖房を入れてもらいたい」「板書をもう少し分かりやすくまとめてもらいたい」「最後の方になると稀に板書がなぐり書きになることがあった」「教壇のレコーダーで板書が見にくいことがあった」などのマイナス評価が特に注目された。次年度の課題として早速改善していきたいと思う。</p> <p>授業アンケート結果は中間と最終を含めて85パーセント以上の回答率であり、平均値をみた場合「教員の声は明瞭で聞き取りやすいものでしたか：8.6」「教員は授業の開始・終了の時間を守ろうとしていましたか：8.3」「教員は学生の質問や相談に応じる姿勢や配慮がありましたか：8.3」「毎回の授業の主題・テーマは明確に示されていましたか：8.2」「授業はシラバス等で示された内容が反映されていましたか：8.2」「教員は学習する雰囲気・秩序を保とうとしましたか：8.1」「総合的に判断して、この授業で満足が得られましたか：8.1」「この授業を受けて、新しい知識や考え方、技術が身に付きましたか：8.0」などはおおむね好評であったと思われる。これに対して「授業内容の難易度は妥当なものでしたか：7.5」「教員の板書は、読みやすかったですか：7.7」「授業中の教材の使い方は適切でしたか：7.7」「教員は学生の反応を確かめながら講義をしていましたか：7.7」「この授業を他の学生や後輩に推薦したいと思いますか：7.8」などの項目は今後の授業改善にあたり、留意していくべきポイントと考えている。高度な内容を如何にわかりやすく説明し理解してもらうかは永遠の課題である。こちらで用意する教材への評価は毎年高いので、今後とも継続して教材研究に鋭意努力していきたい。また最後に実施した定期試験の平均点も高いので、授業目標は達成されたと判断している。</p>				